

2026.6

40010地域ビジネスカフェ Vol.1 ビジュアルレポート

高知大学 地域協働学部
コミュニティデザイン研究室



四万十塾



COMMUNITY
DESIGN
LAB.
KOCHI UNIVERSITY

实施概要

实施概要

イベント概要

- **名称：**40010地域ビジネスカフェ
- **回数：**全2回
- **期間：**2026年6月27日～2026年8月29日
- **主催：**四万十町役場 にぎわい創出課
- **運営：**高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室（須藤順研究室）

【スケジュール】

講座回	開催日	テーマ
vol.1	6/27	他人ごとを、自分ごとに。身近な困りごとから生まれる、地域ビジネスの形

40010地域
ビジネスカフェ
Vol.1

他人ごとを、自分ごとに。

身近な困りごとから生まれる、
地域ビジネスの形

2026 6/27 18:00-20:00

この町で暮らし、働くなかで「自分にも何かできるかも」と思ったことはありませんか？
“40010地域ビジネスカフェ”は、地域で自分らしい働き方を実践しているゲストと、気軽に語り合える交流の場です。
第1回は、「他人ごとを、自分ごとに～身近な困りごとから生まれる、地域ビジネスの形～」をテーマに、
岡山県白石島でデジタルの力で地域の課題解決に取り組む片岡 玲実奈さんと、
四万十町久保川で地域住民の暮らしを支える松下 洋平さんをゲストに迎え、
それぞれのリアルなストーリーをお届けします。

参加費
無料

会場 遊芸庵【四万十町茂串町215-13】

定員 20名程度

対象

- ・同じような想いを持つ人と繋がりたい方
 - ・自分らしい一歩を見つけた方
 - ・四万十町の資源を活用した地域ビジネスに関心のある方
 - ・四万十町をフィールドに何かしたいと思っている方
 - ・地域や身の回りの困りごとの解決をしたいと思っている方
- 上記に限らず、どなたでもご参加いただけます！

タイムライン

- 第1部：ゲストによる取り組み等の発表
第2部：トークセッション
第3部：ゲストと参加者の
フリートーク(自由に交流)
- ※終了後、ゲストと参加者の懇親会を予定
しています【会費制・希望者のみ】

GUEST



参百ノ巻合同会社 代表・
一般社団法人かさおか烏ラボ事務局
片岡 玲実奈氏

高知県出身。高知農業高校、福山大学卒。在学中にアメリカ・
ラオスで醸造を軸に六次産業化ビジネスを学ぶ。卒業後、岡
山県白石島の地域おこし協力隊を経て移住6年目。ITとアナ
ログを地域に馴染ませる“仕組み”をデザインし島民向けLINE
の登録率70%超・開封率8割を達成。地域の新たなインフラと
して定着させた。2026年3月「参百ノ巻合同会社」を設立。デジ
タルの活用で現場の摩擦を減らし、一人の困りごとに深く向き
合うことで、地域や組織が無理なく自然に回り続ける持続可
能な仕組みづくりに挑戦している。

GUEST



ライフショップまつした 三代目店主
松下 洋平氏

有限会社松下商店「ライフショップまつした」の三代目
松下洋平。大阪にいたところ高知県四万十町へ事業継
承のため「ターン」で移住。年々人口が少なくなっていく
地域であり限界集落と呼ばれる日も近づいている地域
で店舗の維持経営はもちろん、高齢者を中心とする買
物弱者への支援として移動販売や、元コックの妻と共に
タイ料理の提供・販売やイベントへの出店、こだわり
酒類商品も店舗に揃えたりなど地域住民のインフラ的
役割も担う店舗を運営している。



Coordinator
コーディネーター
須藤 順
高知大学地域協働学部・教授
神山まるごと高専・准教授

お申し込み方法

下記いずれかのQRコードよりお願いいたします。

申し込み
専用フォーム



Peatix

主催 四万十町

運営 高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室

お問い合わせ先

40010地域ビジネスCafé運営事務局

✉ 40010info@gmail.com

お問い合わせフォーム

● 四万十町にぎわい創出課(担当:友永)

☎ 0880-22-3281

✉ syoko-koyo-40010@town.shimanto.lg.jp



実施要項

- **名称**：40010地域ビジネスカフェVol.1 「他人ごとを、自分ごとに。身近な困りごとから生まれる、地域ビジネスの形」
- **日時**：2026年6月27日（土） 18:00-20:00
- **場所**：遊芸庵（四万十町茂串町215-13）
- **主催**：四万十町役場 にぎわい創出課
- **運営**：高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室（須藤順研究室）

【タイムライン】

Time	Theme	Contents
18:00-18:10	チェックイン	・ 講座の説明 ・ 自己紹介/本日の気持ちの共有
18:10-18:50	活動紹介	・ キーノート①：参百ノ壱合同会社代表・一般社団法人かさおか島ラボ事務局 片岡玲実奈氏 ・ キーノート②：ライフショップまつした3代目店主 松下洋平氏
19:00-19:30	トークセッション	・ ゲストとコーディネーターによる起業や事業に関する意見交換
19:30-20:00	フリートーク	・ ゲストや参加者同士での交流

実施レポート

40010地域ビジネスカフェ Vol.1

40010地域ビジネスカフェ Vol.1では、岡山県笠岡市白石島で活動する片岡玲実奈氏と、四万十町で活動する松下洋平氏をゲストに迎え、活動紹介、トークセッション、フリートークが行われました。片岡氏は高知県佐川町出身。大学卒業後に岡山県笠岡市の白石島へ移住し、現在6年目を迎えています。人口300人、高齢化率が7割を超える同島で、住民に必要な情報を届けるためのLINE公式アカウントを構築するなど、島民の困りごとを丁寧に聞き取りながら、一つひとつ解決につなげる活動を行っています。松下氏は、大阪から生まれ故郷の四万十町へ「ターンし」、親類が営んでいた地域商店の事業を継承しました。移動販売を通じて、買い物の機会を届けるだけでなく、高齢者の見守りや日常の困りごとへの対応など、地域の暮らしを支え、地域で暮らすのに必要なものが揃う「田舎の百貨店」として親しまれていると言います。トークセッションでは、地域で信頼関係を築くために大切にしてきたことや、移住者として地域に関わる姿勢について意見が交わされました。フリートークでは、参加者から感想や質問が寄せられ、地域ビジネスへの理解を深める時間となりました。



片岡氏の活動紹介



松下氏の活動紹介



活動紹介を聞く参加者の様子



トークセッションの様子



フリートークで交流する参加者の様子



Vol.1の参加者の集合写真

参加者アンケート

アンケート概要

調査目的： イベント参加者の満足度や今後の改善点を把握するため

調査対象： イベント参加者

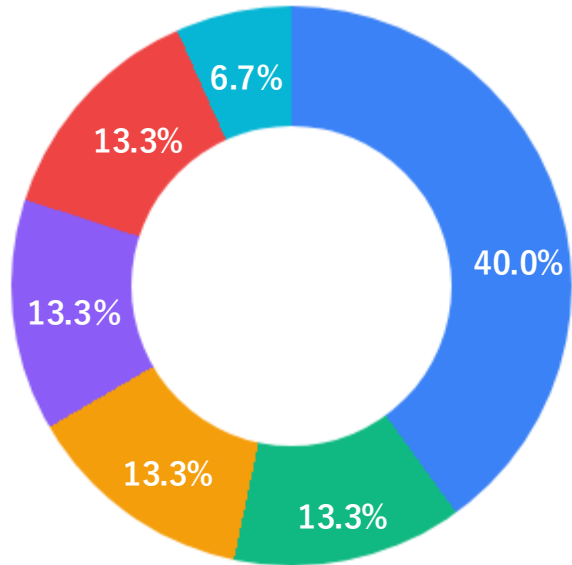
調査方法： GoogleフォームによるWebアンケート

調査期間： 2026年6月27日～7月3日（イベント終了後 1週間）

回答者数： 15名

主な調査項目： 満足度、NPS（推奨度）、参加理由、印象に残った内容、改善点、自由記述 など

Q1. このイベントを友人や同僚に薦めたいと思いますか？（10点満点）



- 10点（非常に薦めたい）：6名
- 9点：2名
- 8点：2名
- 7点：2名
- 5点：2名
- 記述回答（とても満足）：1名

NPS

46.7

最高評価の10点をつけた回答者が4割を占めており、全体として推奨意欲は極めて高いレベルにある。9点以上の「推奨者」に分類される層が過半数を超え、参加者の期待に十分に応えたと言える。一方で5点をつけた慎重な意見も存在する。

Q2. その点数をつけた理由を教えてください。

内容・ゲストへの評価（肯定的意見）

- “ 地方で起業することの魅力や過程を、実践者の生の声で直接聴けるから。
- “ 活躍されてる方の実際のお話を聞けて、自分のビジネスの勉強になることが本当に多かった。
- “ カジュアルで温かい雰囲気があり、質問もしやすくて参加しやすい場だったから。

紹介のハードルと地域性（慎重な意見）

- “ 知り合いにこういった地域ビジネスやテーマに興味をもちそうなタイプが思い当たらないため、紹介しにくい。
- “ 内容としては満足しているが、紹介する相手（求めるターゲット）を選ぶかもしれない。
- “ 窪川での開催は自分にとっては少し行く心理的・物理的ハードルが高い。

好評価の背景には「地方起業の生の声」や「自己の気づき」といったプログラムの実用性がある。他方、紹介時のハードルとして「周囲に関心層がない」ことや「開催場所の窪川へ行く心理的・物理的ハードル」が指摘されており、イベント自体の価値は認めつつもプロモーション手法に一考の余地がある。

Q3. 特に印象に残った内容やお話があれば教えてください。

信頼関係と人間関係の重要性

- “ 狭いコミュニティほど、やはり人間関係や人としての信頼関係が本当に大切になるというお話。
- “ 誰が何を言うか、言葉を選ばないと交流自体が難しくなる。日常の丁寧な関わりが大事。
- “ 小さな困りごとに気づいていけること、日常の小さなコミュニケーションの積み重ねが重要。

挑戦への姿勢・マインドセット

- “ とにかく動いてみる、行動するというシンプルなメッセージが一番心に響いた。
- “ 最初は上手くいなくても、続けていくうちに必要な形になっていくという継続の大切さ。
- “ 持続可能な地域こそがチャレンジだ!! という考え方に非常にワクワクした。

ビジネスのフレームワークよりも、地方ならではの「濃い人間関係への丁寧な向き合い方」や「他愛のない会話からニーズを汲み取るアプローチ」が心に深く刺さっている。特に「論理よりも信頼関係」「とにかく行動」という一次情報ならではの熱意が、多くの参加者に受け入れられた。

Q4. 本イベントを通して、新たな気づきや学びがあれば教えてください。

他者との関わり方・関係構築

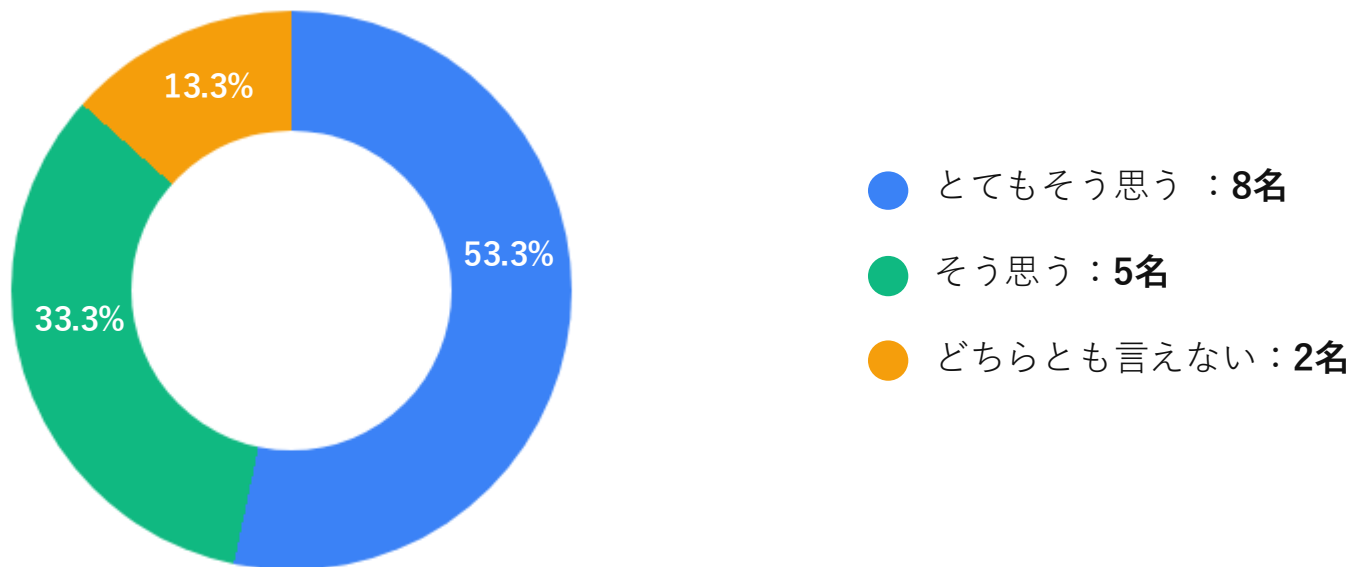
- “ 何気ない会話の中で『困り事』を拾い上げることの大切さに気づいた。
- “ 聞く力を高め、心理的安全性を醸成することがコミュニティ運営のキーになること。
- “ 表面的なコミュニケーションから、一步踏み込んだ『人たらし』コミュニケーションへ。

自己肯定と活動への確信

- “ 自分が今やっている行動や進んでいる方向性は間違いではないという確証を得られた。
- “ 周りと比べるのではなく、自分に合った進め方が大切だと気づいて安心した。

単なる知識習得の場に留まらず、参加者自身が「自分の活動のままで良い」という自己肯定感や行動の確信を強く持てる場として機能した点が注目に値する。さらに、「雑談から課題を引き出す」といった関係性づくりの重要性を学んだとする回答が目立っている。

Q5. イベントを通して「自分も何かやってみたい」と感じましたか？



肯定的な回答が86.6%にのぼり、参加者の多くが意識改革や行動への動機づけを得たことが明白である。イベントのコンセプトである「当事者意識の醸成」において、期待以上の高い成果を収めており、今後のフォローアップや実践の機会の提供が次の成功の鍵となる。

Q6. 具体的にどのようなことをやってみたいと思いましたか？

コミュニティ・場づくりへの参画

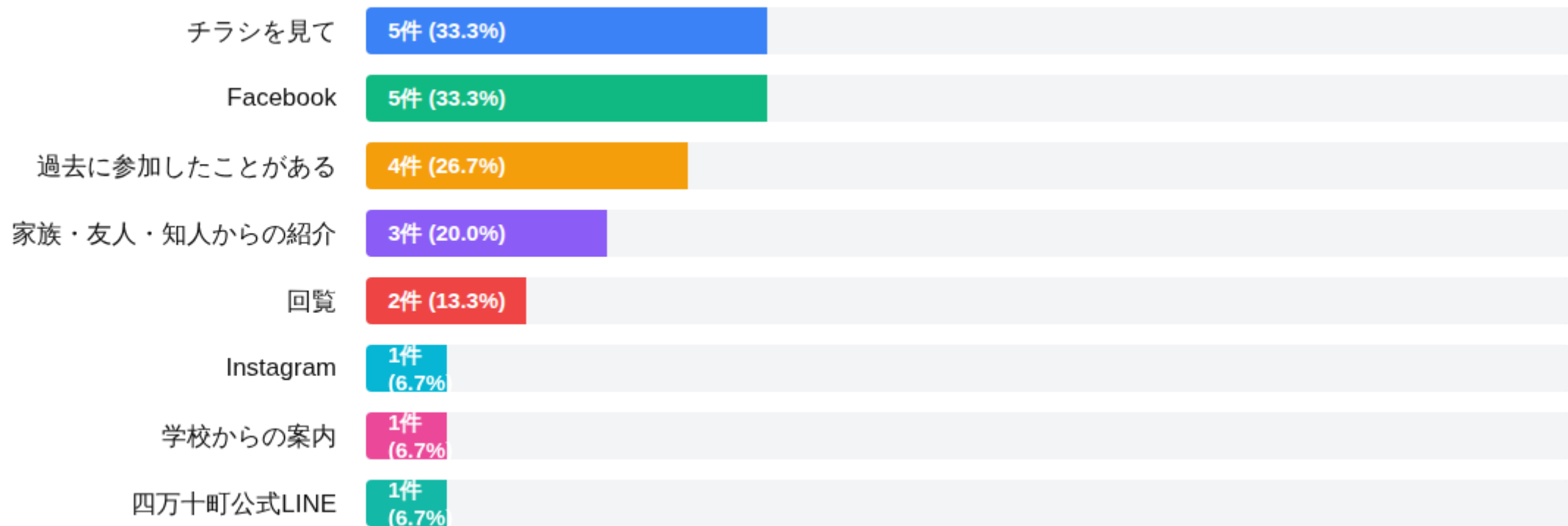
- “ 建築デザインや設計の枠を超えて、コミュニティデザインに参画してみたい。
- “ お年寄りや子ども、多世代が緩やかに繋がっていくための温かい仕組みづくりをしたい。
- “ 買い物や移動の助けになるような、地域の生活を支える仕組みづくりに興味がある。
- “ 近い取り組み（買い物支援やコミュニティづくり）を熊本でもやってみます。

個人のアクション・意識変革

- “ 開業に向けて具体的にアクションを起こす。
- “ 明日から『人たらし』になってみようと思います。もっと周りと話します。
- “ 自分自身に合った新しい交流イベントを模索し、小さく企画してみたい。

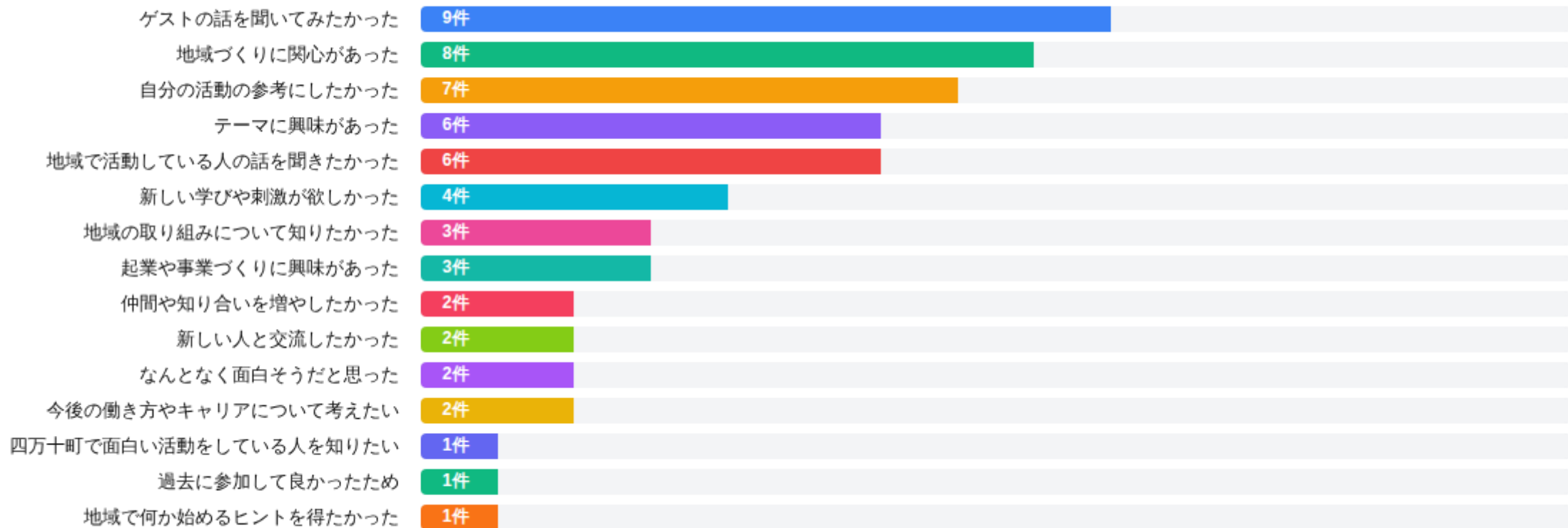
やりたいこととして「多世代が繋がる仕組み」や「コミュニティデザイン」を挙げた回答者が多く、他者との接続への意欲が高い。また「開業に向けた一歩」や「明日から聞き上手になる」といった日常の姿勢の改善に落とし込まれており、高い熱量が具体的な行動に直接反映されている。

Q7. このイベントをどこで知りましたか？



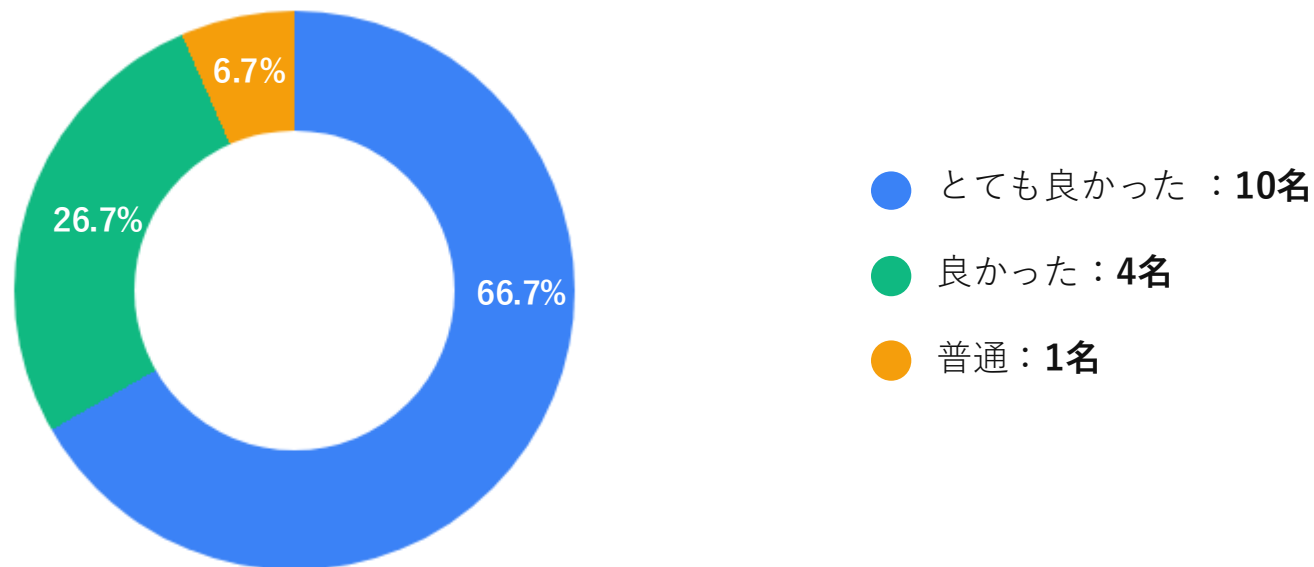
「チラシ」と「Facebook」がそれぞれ同率1位の集客力（各33.3%）を発揮している。地方イベントにおいては、WEB上での認知獲得（Facebook）と同等以上に、印刷媒体（チラシ・回覧）を直接配架・配布する従来型のアナログアプローチが極めて有力な集客チャネルであることが証明された。

Q8. このイベントへの参加のきっかけを教えてください。



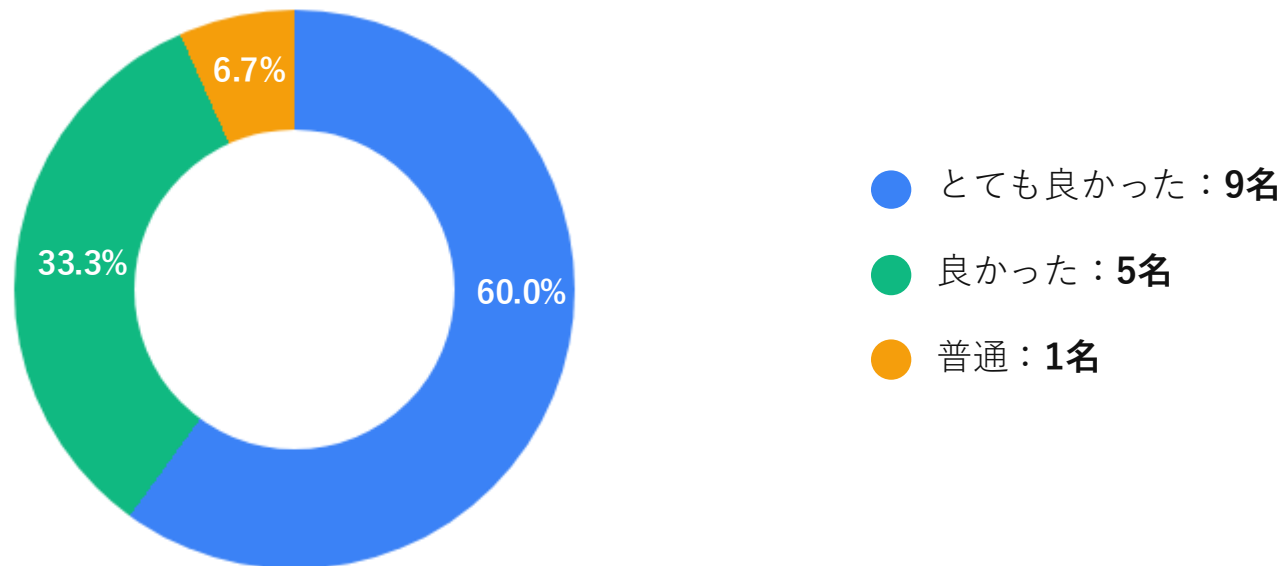
「ゲストのお話（60.0%）」と「地域づくりへの関心（53.3%）」がツートップの動機である。抽象的なビジネス論より、地域で直接汗を流している「ゲストのリアルな生い立ちや葛藤」を聞くことこそが、最も強い集客フックであり、参加者の学びの源泉になっている。

Q9. 参加者やゲストとの交流はいかがでしたか？



交流に対する満足度は合計で93.4%に達しており、極めて高水準である。一方通行の講義を聞くだけでなく、参加者同士、あるいはゲストと本音で対話し合える「双方向の交流プログラム（第3部フリートーク）」を設計したことが功を奏したと評価できる。

Q10. イベントの進行や運営についてはいかがでしたか？



進行・運営に対して93.3%が肯定的な評価を下しており、事務局の当日のアテンド能力や構成が非常にスムーズであった。心理的な摩擦を減らし、参加者が最初から最後まで安心して話に集中できる環境演出が適切に行われていたことが見て取れる。

Q11. 運営に対する評価の理由を教えてください。

運営体制と学生スタッフ（好評価）

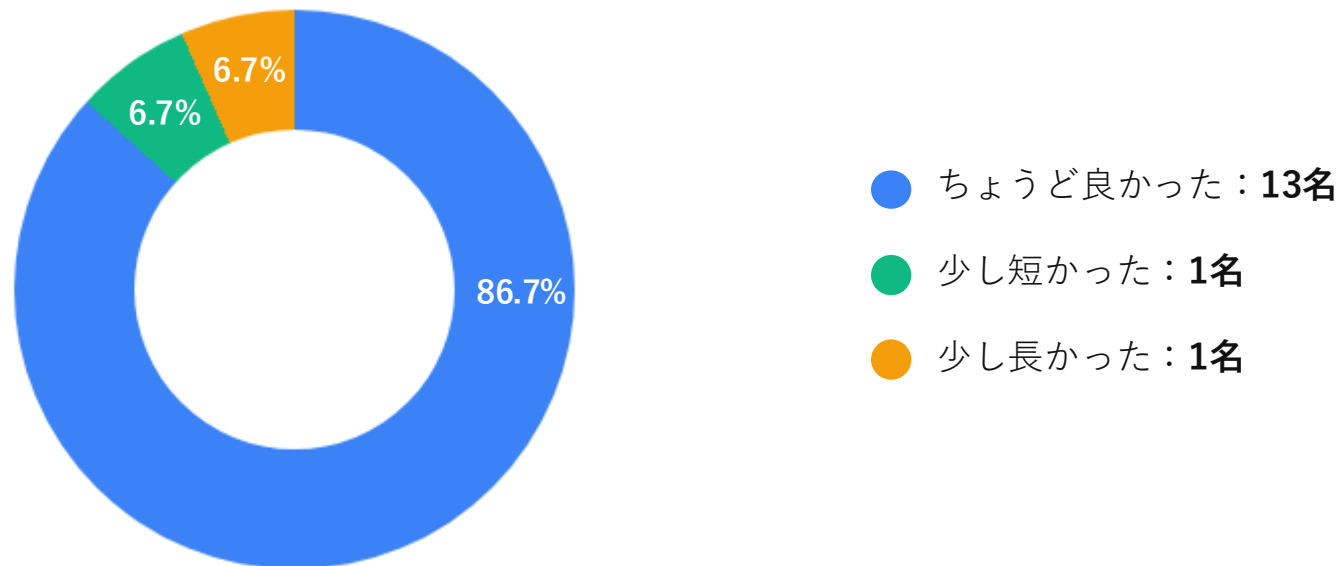
- “ 学生さんの丁寧なサポートや関わりが本当に良く、安心感と温かさがあった。
- “ プログラムのタイムマネジメントがしっかりしており、クロストークも交流も有意義だった。
- “ お二人（ゲスト）の温かいお人柄や熱意が、話を通じて良く伝わってきました。

設備・ハード面への改善点

- “ マイクの音が少し響きすぎて（エコーがかかっている）、一部聞き取りにくい部分があった。
- “ プロジェクターの見え方や機材トラブルなど、音響・映像周りに少し改善の余地がある。

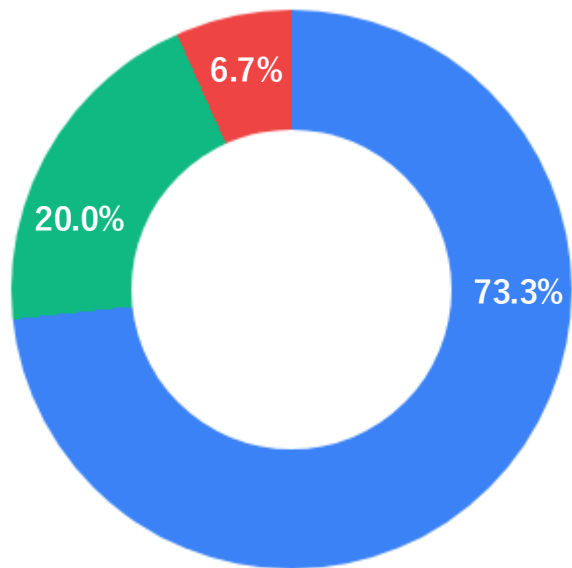
高評価を支えた要因として、受付や司会を行った学生スタッフのホスピタリティがある。これにより「アットホームな居心地の良さ」が生まれている。一方で、マイクの不具合や機材関連への指摘が上がっており、物理的環境の技術チェックを強化すべきである。

Q12. イベントの時間・長さについてはいかがでしたか？



「ちょうど良かった」とする回答がほぼ9割（86.7%）を占め、イベントのタイムライン設計が極めて絶妙であった。講演時間の長さ、フリートークへの接続など、各セクションの時間配分は十分機能している。一方でタイムラインが予定通りでなかった部分もあり、時間配分には引き続き注意をしていく。

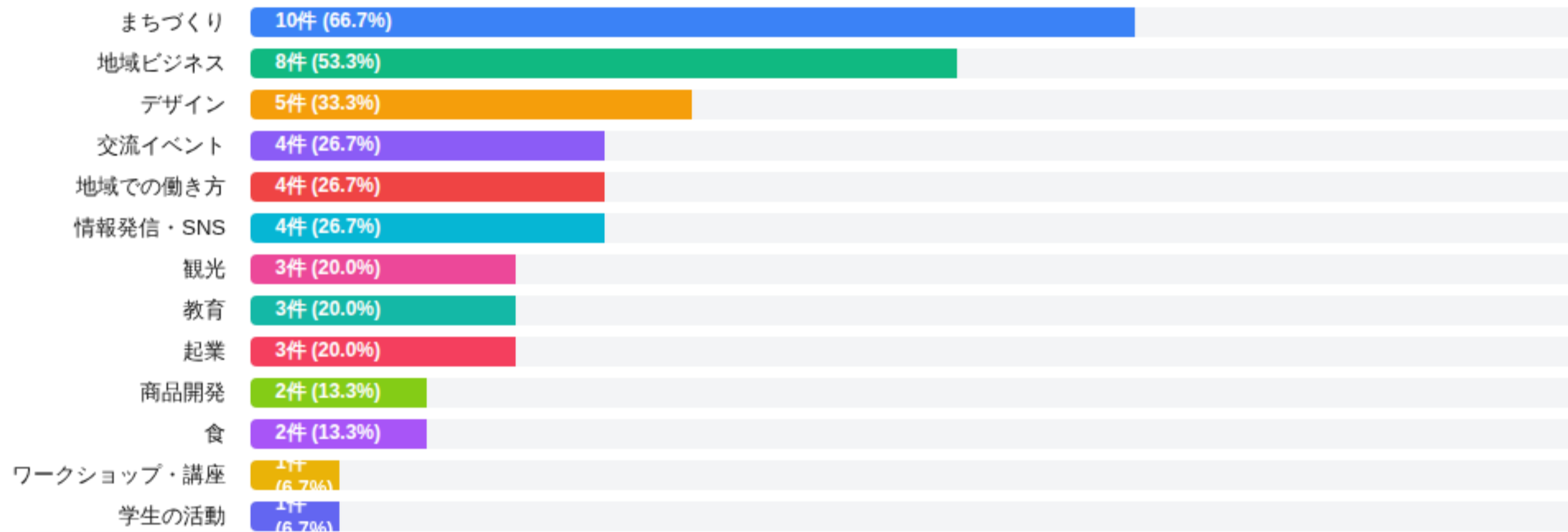
Q13. 会場や雰囲気についてはいかがでしたか？



- とても良かった **11名 (73.3%)**
- 良かった **3名 (20.0%)**
- やや改善が必要（会場が不便） **1名 (6.7%)**

会場（遊芸庵）の風情ある空間と、そこでの和やかな雰囲気に対して93.3%が高評価をしている。一方で、「窪川は少し遠い」というアクセス上の課題が指摘されており、イベント自体の知名度向上と共に、遠方からでも来やすい仕組みやサテライト展開の検討が有用とされる。

Q14.今後、関心のあるテーマや参加してみたい内容があれば教えてください



「まちづくり（66.7%）」と「地域ビジネス（53.3%）」への関心が突出して高い。次回以降の企画においては、この2つが交差するような、地域資源を活かした持続可能な小規模ビジネスなどの具体的ケーススタディをテーマに設定すると高い集客が見込める。

Q15.ゲストへのメッセージ等があれば自由にご記入ください

応援・感銘・熱いメッセージ

- “ お二人それぞれのお人柄がよく伝わってきて、大きな影響と刺激を受けました！引き続き頑張ってください！
- “ 熱く実践をありのままに語ってくださって、自分の活動への良いエネルギーになりました。
- “ お二人の活動が本当に素晴らしいと思いました。陰ながらこれからもずっと応援しています。

深い感謝と今後の期待

- “ 大変貴重な失敗談やリアルなお話をいただき、心から感謝しています。非常に有意義な時間でした。
- “ （参加者）の活動についても、今度はぜひ深く知りたいです！
- “ ゲストの方々の日々のリアルな実態や、もっとドロドロした細かい部分も聞いてみたい。

お二人の「等身大の実践と誠実な姿勢」が参加者に非常に良い感動を与えている。ビジネススクール的な講義ではなく、ゲストが仲間や地域を大切に挑戦し続ける人間らしさに触れたことが、参加者にとって他にはない「ファン化」を生み出す契機となった。

Q16.その他、ご意見・ご感想がありましたら自由にご記入ください

継続開催への期待と感謝

- “ また次回の開催を本当に楽しみにしています！素敵なイベントをありがとうございました。
- “ こうした地域で語り合える場は有意義です。継続的な開催を期待します！運営の皆様お疲れ様でした。

今後の集客や運営への具体的提案

- “ 毎回開催場所が窪川限定なのは、少し遠方からの参加ハードルが高いと感じます。他の地域もぜひ検討してほしい。
- “ 行政を上手く巻き込みながら、こうした取り組みが『当たり前』になる仕組みを地域で作ってほしい。
- “ イベントとして持続させるため、あえて運営の負担や、参加者の敷居を下げる緩い仕組みも必要かもしれない。

大半が継続開催を強く希望している。持続可能性を確保するためには「あえて運営側の作業負担を緩めること」や、開催地域を窪川から町内の他地域（大正・十和）での開催を検討するなど、「出張開催（巡回型）」などの多角的なバリエーション展開が必要である。

- 四万十町役場

- にぎわい創出課

- 担当：友永

- 〒786-8501 高知県高岡郡四万十町琴平町16-17

- E-mail：syoko-koyo-40010@town.shimanto.lg.jp

- TEL：0880-22-3281 FAX：0880-22-5040

- 高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室(須藤順研究室)

- 担当：准教授 須藤順

- 〒780-8520 高知県高知市曙町2-5-1総合研究棟1階

- Web：https://www.communitydesign-kochi.jp/

- E-mail：j.suto@kochi-u.ac.jp

- TEL：088-888-8077 FAX：088-888-8043

※本講座に関する問い合わせは上記までお願いいたします。

※本資料の無断での配布、外部組織や個人への配布・閲覧、及び二次使用は、固く禁止させていただきます。

イベントに関する記事や
情報を発信しております。

Instagram



Facebook



X



note



こちらもぜひ、ご覧ください。